

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	クラブ宇都宮校ANDY		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 27日	～	令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 27日	～	令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムを設定したうえで、子どもの発達段階や特性に応じた柔軟な支援の提供。	子ども一人ひとりに応じた適切な支援を提供できるよう、職員間で常に情報を共有し、当日の様子に合わせた臨機応変な対応を行っている。	保護者からのニーズや、家庭・学校での状況を把握し、個別支援計画に基づいた支援を引き続き行っていく。
2	家族等からの子育ての悩みに対して相談に応じ、具体的な解決策を提示することによる信頼関係の構築。	保護者との会話を通して、悩みや不安を理解し、解決できるよう、面談やコミュニケーションを取ることでできる機会を提供している。	保護者だけでなく子どもからも生活の悩みなどを聞き、職員全体で認識・共有したうえで、次の支援に繋げられるようにする。
3	子どもたちの気持ちの変化に応じたフレキシブルな対応。	子どもたちの表情や動きから、気持ちの変化をくみ取り、集団活動への参加が難しい様子であれば、個別での対応や部屋の移動を行い、気持ちの整理を促している。	気持ちが不穏になった際には、天候や曜日などある程度の見通しを立て、該当の日には決められた活動のほか、個別対応も可能な準備を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	定期的な面談回数が限られており、コミュニケーションを十分に取ることができていない保護者の方がいる。	現在、6か月に一度のモニタリングでしか面談の場を設けることができておらず、日々の様子などは送迎時に伝えるだけになってしまっている。そのため、送迎時に直接会うことができない保護者とのコミュニケーションの機会が不足している。	保護者からの悩み事や相談などは、いつでも話ができる事業所であると、送迎時やLINEでお知らせしていく。
2	保護者参加以外の事業所内イベントに関して周知ができておらず、“知らなかった”と言われてしまう。	月に一度のイベントは周知ができていないが、避難訓練や、季節行事の際のお楽しみ会について事前にお知らせができていないため、保護者に認知してもらうことができていない。	月ごとのイベントや、日ごとの集団活動の内容をカレンダーにし、連絡ツールで全体への周知を行う。また、月ごとのイベントに関しては、年間計画を打ち立てて周知を行う。
3	子どもの様子や事前の病歴、支援に必要な情報の共有に時間がかかる。	個々の職員間での連携・情報共有はできているが、全体での打ち合わせを行う時間が作れていない。当該児童が出席した際に職員に伝えるため、一つの情報を全体で共有するまでに時間がかかってしまっている。	保護者とのやり取りなど形に残らないものは、LINEで全体周知を行う。また、検査結果等書面で保護者からお預かりしたものは、スタッフ全員が閲覧できるように事業所内回覧板に綴じ込む。